

# 大学入試のあり方に関する検討会議（第9回）資料

## 地方教育行政からみる 大学入試と高校教育

埼玉県教育委員会  
教育長 高田 直芳

## 発表者略歴（高田 直芳）

昭和57年4月 埼玉県立高校の教諭として着任（外国語科（英語））

以来、高校教諭として16年間、  
埼玉県教育局職員（高校教育指導課長を含む）  
として12年間、  
県立高校教頭・校長として9年間、定年まで勤務

令和2年4月 埼玉県教育委員会教育長に就任

## 【振り返り（1）】

- 思考力・判断力・表現力を問うための  
**記述式問題**（国語・数学）の導入
  - 英語によるコミュニケーション能力を問うための  
**4技能試験**（読む・聞く・書く・話す）の実施
- ～ともに、理念や方向性は学習指導要領に沿うもの～

## 【振り返り（2）】

- 思考力・判断力・表現力を問うための  
**記述式問題**（国語・数学）の導入  
～理念や方向性は学習指導要領に沿うもの～
  - しかし、実施に向かっていく中で…
  - 記述式問題は**形骸化**（記述式問題の採点の負担・公正性の担保・時間的制約等）

## 【振り返り（3）】

- 英語によるコミュニケーション能力を問うための  
**4技能試験**（読む・聞く・書く・話す）の実施  
～理念や方向性は学習指導要領に沿うもの～
  - しかし、実施に向かっている中で…
    - 全国50万人規模での実施は困難
    - 民間試験の導入
    - 問題続出（受験生の経済的負担、地域格差、  
会場の確保など）

## 【振り返り（４）】

○ 大学入学共通テストへの導入が目的化？

- 実現困難な状況にも関わらず、  
早期の変更修正に至らず
- 該当学年の生徒に多大な不安と  
混乱を与えた

## 【得られた教訓】

- 制度改革には、理念・理想 (*Ideal*) も大切であるが、同時に、実現可能性 (*Feasibility*) も大切である。この二つの両立が、不可欠である。
- 今回改めて、実現可能性 (*Feasibility*) に基づいた 大学入学共通テスト と 各大学の個別入試 の役割を見直すことの重要性が確認された。

## 【再確認事項】

- **大学入学共通テストは、国からのメッセージ**
  - ナショナル・テストとして大学で求められる一定レベルを提示
  - ※ これまでの大学入試センター試験について
    - ・ 問題の質や実施方法には高い評価・国民的信頼
  
- **個別入試は、各大学からのメッセージ**
  - アドミッションポリシーや各大学の多様性の提示
  - ※ 各大学が、それぞれの 理念・理想 (*Ideal*) と 実現可能性 (*Feasibility*) の追求を。



# 【高校生を指導する学校・地方教育行政の立場から】

## ○ 教育委員会の使命

→ **学習指導要領**の理念の実現を目指す教育活動を推進

## ○ 学校の使命

→ **学習指導要領**の理念を具現化した教育活動を実践

## ○ 教育委員会と学校は、**学習指導要領**の示すカリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学び、評価の在り方等について、研究・準備に努力

→ その延長線上に、**大学入試**が位置づけられることが望ましい

## 【整理・提言】大学入学共通テストについて

- 理想としての記述式問題・英語4技能試験が間違っていたわけではない。
- 制度改革に当たっては、理念とともに実現可能性も極めて重要である。
- ナショナル・テストとしての大学入学共通テストには、学習指導要領に基づいた出題が求められる。
- 全国の受験生にとって、可能な限り公正・公平な試験であることは不可欠である。
- 1点刻みの入試について改善の必要性は認めるものの、その一方で公平性・公正性の確保もまた求められている。
- 大学入学共通テストと各大学の個別試験とは分けて考える必要がある。

## 【終わりに】

- 令和2年度の高校3年生（及びそれ続く学年の生徒）は、高大接続改革の混乱と新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休校とで、二重の苦しみにあっている。この状況から生徒を救うのは、私たち教育に携わる者の責任である。
- この国の将来を担う若者たちのため、これからも文部科学省の指導の下、各自治体の教育委員会としても、努力していきたい。